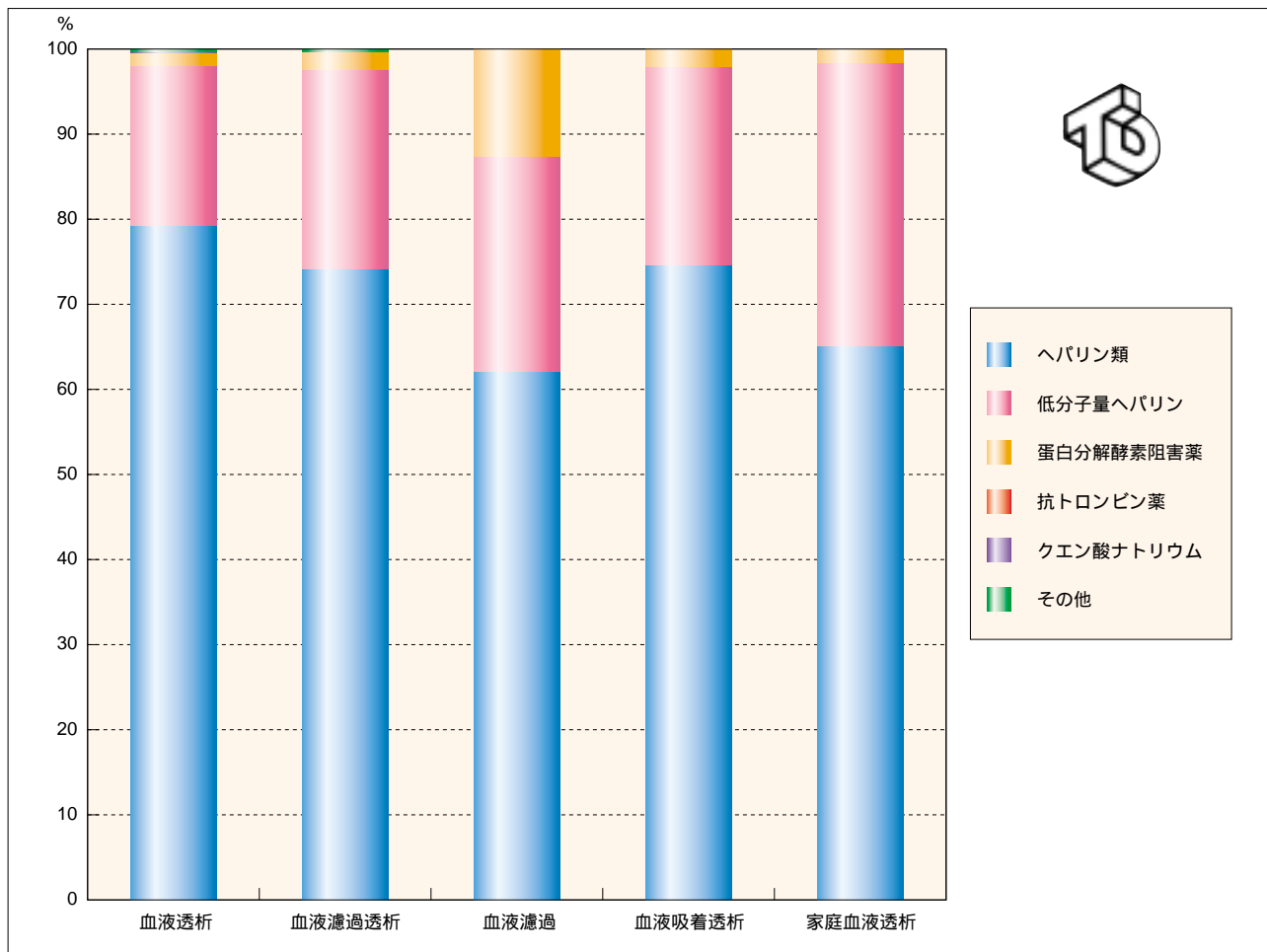


### 3) 抗凝固薬の使用状況

(1) 治療方法別 抗凝固薬の種類 (図表35)



#### 解説

従来より透析時の抗凝固薬として、ヘパリンが主に使用されてきました。出血性病変を合併する症例に対しては半減期の短い蛋白分解酵素阻害薬（メシル酸ナファモスタット）が有用ですが、高価であり長期使用できないという欠点があります。最近低分子量ヘパリンが開発され、抗Xa活性が優位なため出血傾向を悪化しにくいなど、ヘパリンでみられる副作用が少ないことから使用されるようになってきています。

今回の結果では、血液透析においてヘパリン類が79.3%、低分子量ヘパリンは18.8%を占めていました。